



豊玉二中だより

令和4年度 第8号
発行日 10月13日(木)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

伝統の継承から、さらなる発展へ

校長 神山 信次郎

豊玉第二中学校は、本年開校六十周年を迎えました。本校は昭和37年4月1日に練馬区立豊玉中学校から分離独立し開校しました。これまで、7,675名の生徒が本校を巣立ち、自らの夢を追いかけ、社会の一員として多方面で活躍していることを大変喜ばしく思います。こうして、六十周年を迎えることができましたのも、本校で学び生活した生徒たちの数々の努力はもちろんのこと、地域の皆様のご支援、ご協力の賜と感謝いたします。

ここ十年間で、豊玉第二中学校は伝統を引き継ぎながら、新しく姿を変えてまいりました。まずは、新校舎への建て替えです。構造的経年劣化、練馬区小中一貫教育の推進校として平成26年7月に地域の学校にふさわしい五角形の新校舎へ生まれ変わりました。開校当時から、豊玉第二中学校を見守ってくれていた、校歌の一節にもある檜の木は、新校舎の壁面に姿を変え、本校に集う生徒、保護者、地域の方々、教職員を静かに見守ってくれています。「かしは根を張る、年輪を重ねつつ」の言葉どおり、檜の木が今も見せてくれる強い意志と耐性は、豊玉二中の変わらぬ質の高い教育と、英知を尽くして困難を乗り越える力の源となっています。開校当時の地域有志の並々ならぬ努力に思いを馳せると、六十年間、綿々と継承されてきた地域の教育への熱い思い、子供たちの成長と幸せを一番と考える教育を新校舎となったこれからも継承していく責務を痛感します。

また、令和2年度には、かねてより念願だった標準服の改変が行われました。時代の多様化にとめない、のびのびと活動するにふさわしい機能性を重視した新しい標準服は、これからの豊玉二中の象徴となる、「知性と爽やかさ」をイメージしたデザインとなりました。心身共に大きく成長する生徒を守るための素材や多様性を考慮し、豊玉二中生に長年受け継がれてきた揺るぎない向上心、自立の気風が胸のネクタイやリボンのストライプに表現されています。これまで以上に、学習や諸活動に積極的に取り組む、明るく活気あふれる豊玉二中生の姿を広く見ていただくことで、新しい標準服が地域の方々にも浸透し、愛されるものになってほしいと願います。

六十周年といえば、人間でいえば還暦です。本校も苦難や語りつくせない体験、心温められた経験で、培われた伝統の六十年を礎に、今の時代の変化に合わせ、新しい形を模索しつつ、より実り多き学びの場へと移行する節目を迎えたこととなります。開校以来、この地域で良質の教育をと願い、幾多の苦難を乗り越え、その時々先生方、地域の方々の協力の下発展を遂げてきた豊玉二中です。次の七十周年、百周年に向け、私たちは先輩が残された素晴らしい伝統を受け継ぎながら、新しい豊玉二中を創造していく大切な使命を今、心に刻み、決意を新たにします。ひとりひとりの生徒を中心に捉え、教職員はもちろんのこと、地域の方々に支えられ見守られながら、質の高い教育の提供と信頼される学校を実現し、義務教育の責任を果たし、地域の方々の期待にこたえられますよう努力してまいります。

